

授業科目名： 海外演習 B (岩手大学)		単位数 2 単位	担当教員名： 教授・准教授
			担当形態： 単独
配当年次： 1・2・3・4 年次前期・ 後期	授業形態： 演習科目		開講形態： 岩手大学独自開講
授業のテーマ及び到達目標： 海外で研究活動や診療活動に参加することにより、国際的に通用する思考能力、実践力を身につけることを到達目標とする。			
授業の概要： 渡航期間が 2 週間程度あるいはそれ以上の期間、海外の研究機関において研修及び共同研究、調査を行う、あるいは海外の診療施設において臨床実習に参加し、国際性を育成する。			
授業計画： 渡航期間が 2 週間程度あるいはそれ以上となる期間、海外で研修を受け、世界で活躍する獣医師としての国際性を育成する。 海外での研修とは、以下のようなものを指す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 海外の研究機関において研究を中心とした研修、共同研究、調査などを行い、海外の研究者から研究指導及び技術指導を受け、知識と技術を身につける。 ・ 海外の臨床施設において、臨床実習に参加し、海外の臨床獣医師から臨床に関する指導を受け、最先端の臨床に関する知識と技術を身につける。 海外研修の成果は帰国後プレゼンテーションを行い発表すると共に、学んだことをより深く理解するために成果報告書やレポートを作成する。			
(板垣 匡) 獣医寄生虫学、分類、形態、疫学、分子系統			
(宇塚 雄次) 獣医神経病学、画像診断、獣医麻酔学、獣医放射線治療、環境放射線			
(岡田 啓司) 生産獣医療学、牛、代謝、アニマルウェルフェア、行動、生産性			
(落合 謙爾) 獣医病理学、動物疾病、病理発生、ウイルス、腫瘍			
(木崎 景一郎) 動物生命科学、総合動物科学、分子細胞生理学			
(佐藤 至) 環境衛生学、放射性物質、化学物質、重金属、環境汚染			

<p>(佐藤 洋)</p> <p>薬学、薬理、基礎医学、トキシコロジー、内分泌、実験病理、化学療法</p> <p>(高橋 透)</p> <p>繁殖障害の診断・治療・予防</p> <p>(古市 達哉)</p> <p>動物生命科学、総合動物科学、実験動物学、疾患モデル動物学、発生工学</p> <p>(村上 賢二)</p> <p>微生物学、獣医感染症学、獣医免疫学、病原微生物、ウイルス、動物ウイルス感染症、感染免疫、診断・予防</p> <p>(山本 健久)</p> <p>獣医衛生学、獣医公衆衛生学、獣医疫学、統計、数理モデル、シミュレーション、分子疫学</p> <p>(山崎 真大)</p> <p>小動物内科学、獣医血液病学、原虫病</p> <p>(山本 欣郎)</p> <p>動物生命科学、総合動物科学、神経系比較組織学</p> <p>(寺嶋 淳)</p> <p>農芸化学、基礎医学、社会医学、食品微生物学、細菌学、公衆衛生、食品衛生、予防医学</p> <p>(片山 泰章)</p> <p>獣医外科学、臓器移植、腎臓病学、整形外科</p> <p>(中牟田 信明)</p> <p>動物生命科学、総合動物科学、感覚器解剖学</p> <p>(山田 慎二)</p> <p>病原微生物、防疫、疾病予防・制御</p> <p>(山田 美鈴)</p> <p>動物生命科学、統合動物科学、ホメオスタシス維持機構</p> <p>(星野 有希)</p> <p>獣医外科学、臨床腫瘍学、軟部組織外科学</p>
<p>テキスト：特になし</p>
<p>参考書・参考資料等：特になし</p>
<p>学生に対する評価：帰国後に実施報告のプレゼンテーションおよび成果報告書の提出を求め、研修、研究、診療活動へ参加することで得られた研究成果や研修成果を主指導教員が評価する。また、受け入れ先研究機関等の研究者にも評価を依頼し、これらを総合して評価する。</p>